

1-1 札幌駅交流拠点先導街区整備基本構想策定の背景・目的

<背景>

札幌駅交流拠点におけるこれまでの検討の経緯

- 第一次整備構想（昭和53年度）：鉄道高架化
⇒鉄道高架後の駅南北の土地利用や基盤施設整備について検討
- 第二次整備構想（平成4年度）：札幌駅南口土地区画整理事業
⇒南口駅前広場等の公共施設の配置計画や事業手法、歩行者動線、駅前の空間構成等について検討
- 「札幌駅交流拠点再整備構想案」（平成24年度）
⇒札幌の国際競争力を高めるため、札幌駅交流拠点が目指すべき将来像を提示

社会潮流の変化

- 東日本大震災を受けた防災意識の向上
- 環境低負荷型都市づくりの推進
- 国際的な都市間競争

札幌・北海道の動向

- 北海道新幹線の札幌延伸
- 国際空港機能の強化
- 2026年冬季オリンピック・パラリンピック招致

- 社会潮流の変化や各種上位計画の見直しに対応して、札幌・北海道の国際競争力をけん引する札幌駅交流拠点の機能強化検討の必要性
- 北海道新幹線の札幌開業を踏まえ、ターミナル駅直近にも関わらず土地の有効利用が図られていない先導街区の整備方針、及び交通結節点としての機能強化の検討の必要性

<目的>

各種上位計画※の考え方をもとに、札幌駅交流拠点再整備構想案の内容も踏まえ、札幌駅交流拠点のまちづくりを先導し中核となる街区の整備や、各事業主体で検討が進められている関連事業に対する市の基本的な考え方について整理することを目的とします。

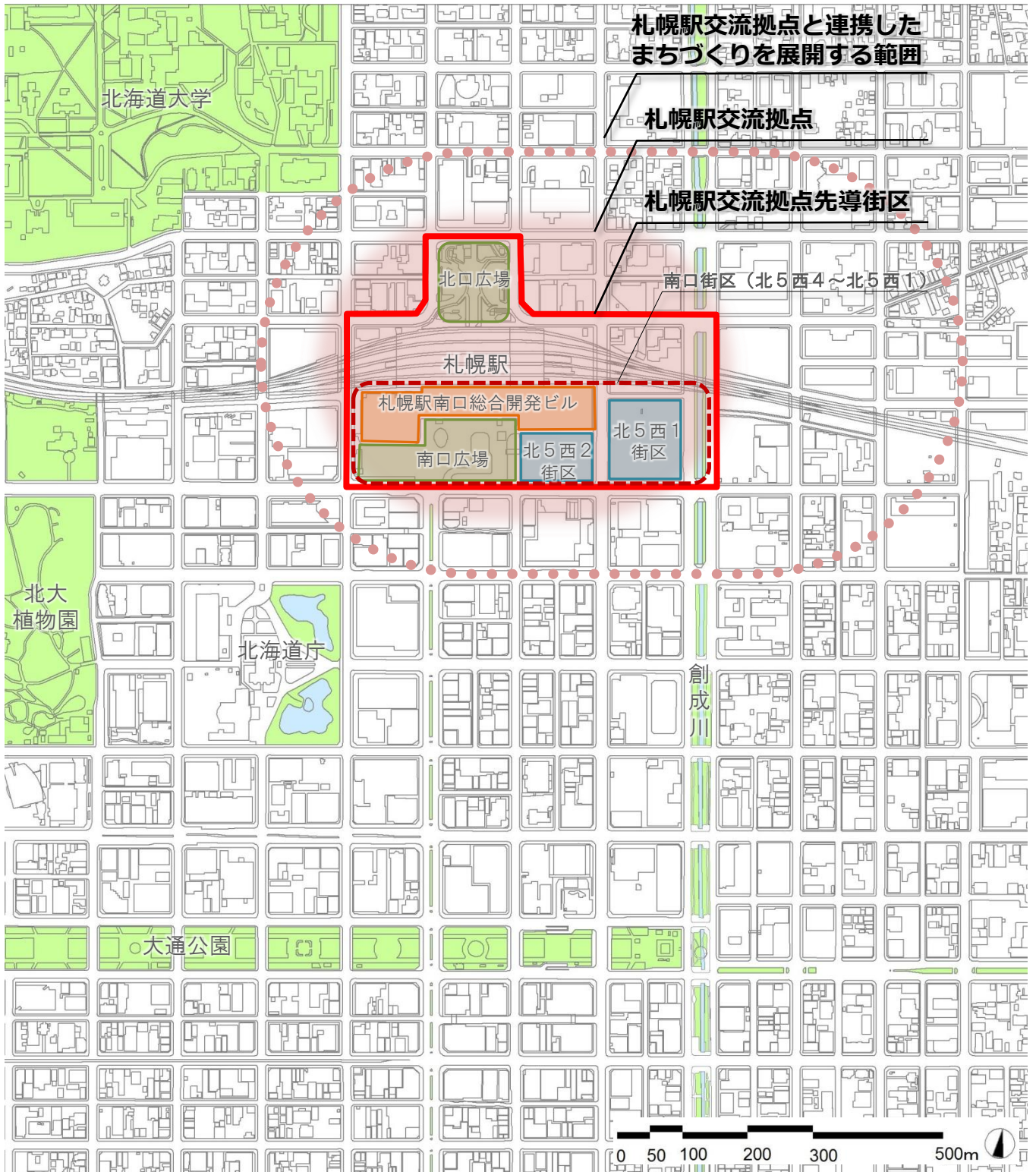
これを基に、今後策定を予定している（仮称）札幌駅交流拠点まちづくり計画や各種関連事業の整備計画等について、関係する事業者や行政機関との検討を行うとともに、周辺地区との連携を推進していきます。

※各種上位計画：札幌市まちづくり戦略ビジョン、第2次都心まちづくり計画等

1-2 札幌駅交流拠点先導街区整備基本構想の対象範囲

札幌駅交流拠点のまちづくりを先導する街区として、主要な交通施設やそれらに関連した開発が見込まれる、JR札幌駅、南北の駅前広場、バスターミナルのある北5西2街区、及び駐車場等で暫定利用中の北5西1街区を含んだ下図の約17haの範囲を対象とします。

また、先導街区に隣接する周辺街区については、道路・歩行者ネットワークの構築や機能集積、街並み形成などにおいて調和のとれたまちづくりを推進する観点から、先導街区と連携した施策の推進が重要であるため、本構想の中では周辺街区のまちづくりに資する基本的な考え方についても触れます。



1-3 札幌駅交流拠点先導街区整備基本構想の構成

